

東静岡駅地区市有地を活用した都市デザイン提案コンペ 審査講評

■ 総評

このコンペは、東静岡駅地区の市有地を活用する都市デザインコンペである。つまり、あらかじめプログラムが与えられた建築のデザインコンペではない。提案されたものが即実現する訳ではなく、ソフト、ハードを含めて開発の方向性を探るためのアイデアコンペといっている。

「今、副都心東静岡に必要なもの」というテーマには「文化の発信」、「賑わいの創出」、「防災機能の強化」といったキーワードが示されていた。審査委員は7名。審査は、最初は会議室の机に均等に並べられた作品に、審査委員が各5票ずつのシールを添付する。次に1票のみの獲得作品について投票理由の説明があり、二次審査に移行するという手続きで進められた。

1次審査で10作品が残ったが、大きく分けて3つの分類が存在した。一つは低密度の広場ないし造園形の作品、二つ目は高度利用による活性化の作品、三つ目は産学連携のような提案機能のコンセプトが優れている作品である。

2次審査は各審査員3票の持ち票で、グループ分けの中で最も優れているものに投票して頂く方法で審査を進め、各委員間での意見交換の後、各賞に決定された。

審査後、サッカースタジアムをテーマとした作品の紹介があった。応募期限に遅延しているため、やや問題は残すものの、この作品も他と同様に市民に公開することを審査会は同意した。

■ 最優秀賞 (作品 No115)

○コンセプト：しずおか『ひとつなぎ』シティ

○講評：

低密度、中密度の土地利用を提案した作品が多いなか、市有地の容積率500%に対して真剣に解答を模索した作品である。実現のためには、地区計画等、都市計画の変更も含めた検討が必要だが、東静岡駅前の貴重な市の財産を目一杯使った提案として評価した。

また、産業、観光、定住という3つの機能を導入し、市外から人を集めようという思いが色濃く出ている。さらにはこの機能の導入が、「文化の発信」、「賑わいの創出」、「防災機能」というコンペの3つのテーマへの解と明確に繋がっていることも評価できる。

■ 優秀賞 （作品 No107）

○コンセプト：マチノワ

○講評：

市が市有地に求める機能に加え、市の重点政策である子育て支援等も施設内のコンテンツとして取り入れており、市有地に導入するコンテンツとして実現性が高い作品である。

建物の造形のインパクトはないが、敷地内に配置された低層の建物同士の繋がりがシンプルであり、またコンテンツが連携していくことが空間的に伝わってくることは評価できる。

■ 優秀賞 （作品 No242）

○コンセプト：都市を絡（まと）う

○講評：

静岡に今強く求められるインキュベーション機能の導入を強調した作品であり、インキュベーションの場となる敷地内の学校や公園の賑わいが良く表現できている。

商業系を施設の4層に入れることは少し過密と思われるが、1階部分の平面図をみると空間構成や使い方が良く出来ており、建築の視点からみれば、高品質の建築が整備されることが期待できる。